

トウダイグサ科 トウダイグサ属

アレチニシキシソウ (荒れ地錦草)

Euphorbia sp.

自生環境

道ばた、荒れ地、畑地 など

原産地

原産地不明

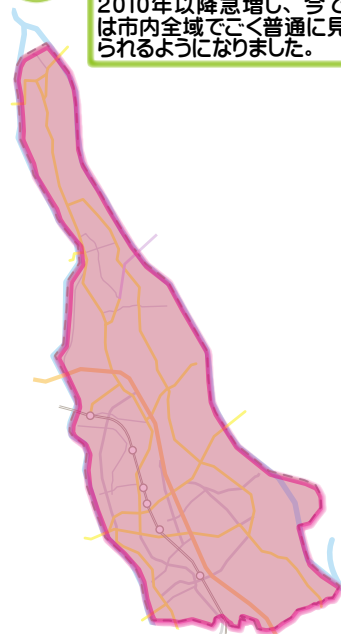
予想される被害

駆逐

比較的新しい外来種で、繁殖力が強い
ため急増しています。すでに他の
植物の生育場所を奪う勢いで増えて
きており、今後の動向によってはさら
に影響が広がるおそれがあります。

市内の分布状況

2010年以降急増し、今では
市内全域でごく普通に見
られるようになりました。



特徴

- ☆ 1952年に兵庫県で発見されて以来、西日本を中心に急速に広がっていきましました。2000年代になると東日本でも数が増えはじめ、今は市内でもいたるところで見かけるようになりました。おそらく外来種であろうと推定されていますが、その正体は現在もよくわかっていません。
- ☆ 草があまり茂っておらず、地面がある程度見えているような場所に多く生えます。株もとから何本も茎を出し、地を這うようにして広がっていきます。ただ茎の途中から根を出すことはありません。環境によっては多少茎が立ちあがることもあります。
- ☆ 同じ仲間のコニシキシソウによく似ていますが、全体的に白っぽい色をしており、また葉に黒い模様はありません。夏から秋にかけて葉のわきにとっても小さなピンク色の花を咲かせます。その後でできる果実の表面は白くて長い毛が全面に生えています。

未だに正体が分からない

本種が最初に発見されたのは 1952 年の有年駅付近（現・兵庫県赤穂市内）。当時はヨーロッパ原産の *E. chamaesyce* subsp. *massiliensis* と同定され、同時にアレチニシキシソウの日本名が与えられました。ところがその後の研究で、どうも *E. chamaesyce* subsp. *massiliensis* ではないらしいことが判明。最初の発見から 70 年近く経った現在も、その正体ははっきりわかっていません。

株もとから多数の茎を出し、
地を這うように広がる



茎は途中から
根を出さない

茎は少し
赤みがる

葉は白っぽい

花はとても小さく、
葉のわきにつく



茎はよく
枝分かれする

茎が多少
立ちあがり
地面から
浮いたように
見えることも

腺体
付属体
腺体は
蜜を出す



腺体と
付属体が
花びらの
ように
見える

果実ははじめ
下向きにつく

果実の
表面は
白い毛
が多い

果実は
熟すと
上を向く



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

